

第3章 現代社会の諸課題

40

〈第2節〉
国際社会の諸課題

パレスチナ問題とは何か

学習のねらい

講師：藤井 剛

民族の対立や宗教の対立などを原因として、世界にはたくさんの紛争が起きていることを、1学期に学びました。今回はその中から、パレスチナ紛争を取り上げて、どのような問題か、何が原因で起きたのかなどを学んでいきます。

point 1 シオニズムとイスラエル建国

- ①パレスチナ：中東にあるシリアとエジプトの間、に面した東海岸一帯の地方を指す地名である。
- ②シオニズム：ローマ帝国によってヨーロッパ各地に散らばされたユダヤ人が、各地で差別や迫害を受け、「パレスチナの地に故郷をしよう」とする運動を指す。
- ③イスラエル建国：ナチスによる大虐殺を経験したユダヤ人は、続々とパレスチナに移住し、を建国した。

point 2 パレスチナの主張

- ①パレスチナの土地争い：パレスチナ人にとっては、第2次世界大戦後、多くのユダヤ人が突然移住してきて、を奪われたと感じている。
- ②パレスチナ解放機構：パレスチナを追われたが故郷を取り戻そうとする闘争を統合する組織で、たびたび抵抗運動を組織的に行った。

point 3 対立から共存へ

- ①対立の原因：歴史的な争い、聖地を巡る争い、冷戦終結までは米ソのだったことなどが原因となっていた。
- ②和平への試み：1978年のキャンプ・デービッド合意、1993年のオスロ合意などがあり、特にオスロ合意では和平が大きく前進したが、ラビン首相の暗殺で後退した。2003年のでは、パレスチナとイスラエルの共存を目指したが、で交渉が止まり、現在、今後の和平交渉の行方が分からなくなっている。
- ③共存への道：レベルの交流を進め、これまでも行われていたの交流を通して信頼感を高め、政治的な解決を目指す方法が期待される。経済交流を出発点にし、日本がその架け橋になるという提案もある。